

感情を身に纏う

Wearable Emotions

西川 あみか



喜怒哀楽を衣装で可視化する

テーマパークにおける表情が固定されたキャラクターの感情表現を補助する舞台衣装の提案。「感情の衣装」を着用したキャラクター専属の「感情の役」を舞台上に設定する事で、キャラクターの感情の変化が可視化され、感情表現の幅が広がるのではないか。

The Visualization Of Emotions Through Costumes

My proposal is for a series of stage costumes that support the way emotions are expressed through theme park characters. By assigning an 'emotional profile' for each character and it's correlating 'emotional costume', the changes in the character's emotions can be visualised and the depth of emotional expression can be enriched.



幸福をイメージさせる桃色、喜び・軽快をイメージさせる橙と黄色のグラデーションで胸の内から溢れ出る「喜」を表現。演者が回転することで、じんわり広がる喜びを身体表現できると考え、回転すると薄いオーガニックの層が広がる構造になっている。



興奮をイメージさせる赤、嫌悪をイメージさせる黒がメインカラー。怒った表情の眉毛と睨みつける鋭い目つきのラインを、パンツや袖の切り口、襟のラインに用いて「怒」を表現。「頭に血がのぼる」という言葉から着想を得て、トップスは激しい怒り、ボトムスは冷静な怒りをモチーフとしている。



悲哀をイメージさせる青、不信をイメージさせるグレーをメインカラーに、気持ちの沈みと涙の雫から着想を得て、下重心の雫型のシルエットで製作。オーバーサイズ、ウエストラインを膝の高さに設定することで、下重心に見せ、「哀」を表現している。



愉快をイメージさせる黄色、活発をイメージさせる橙がメインカラー。スキップやジャンプといった跳ねる身体表現で気持ちの高揚感を表現できると考え、動きと共に衣装も弾んで見えるよう、手足とウエストに布の絞り膨らみのコントラストをつけて弾みを演出し、「楽」を表現した。